

平成17年度 プロジェクト研究評価報告

プロジェクト研究課題名	食の安全性・環境負荷の軽減を志向する農業生産システムの育成とそれを支援する農政のあり方に関する研究
研究実施期間	平成16年度～平成18年度
プロジェクト研究の概要	安全・環境負荷軽減などの消費者ニーズを満たす食品を生産する環境保全型農業等の戦略的育成を図るため、これらに先駆的に取り組む経営体について分析するとともに、海外の動向との比較も行いつつ、こうした経営を志向する経営体の育成を図る条件、支援策のあり方を解明する。
<p>評価結果</p> <p>○評価会議名及び開催日 農林水産政策研究所 評価委員会 平成18年2月17日</p> <p>○評価委員名 坪井伸広 (筑波大学教授) 野見山敏雄 (東京農工大学助教授) 矢坂雅充 (東京大学助教授)</p> <p>○評価基準 A: 高い B: 概ね高い C: やや低い D: 低い (効率性のみ) A: 妥当 B: 概ね妥当 C: 見直しが必要 D: 妥当でない</p> <p>○総合評価基準 1. 問題はない 2. 改善の余地がある 3. 計画変更の必要あり 4. 中止すべき</p>	<p>【評価項目ごとの評価】()は3名の評価委員の投票数を示す。</p> <p>〈必要性〉 ○政策の企画・立案への貢献 A評価(2)、C評価(1) ○社会的ニーズへの対応 B評価(3)</p> <p>〈効率性〉 ○研究計画の妥当性 B評価(2)、C評価(1) ○研究資源・実施体制の妥当性 A評価(1)、B評価(1)、C評価(1)</p> <p>〈有効性〉 ○研究目標の達成度・達成可能性 B評価(2)、C評価(1) ○研究成果の実績 B評価(2)、C評価(1)</p> <p>【総合評価】 2. ほぼ順調であるが、改善の余地がある。(2) 3. 計画等を変更する必要がある。(1)</p> <p>【評価委員からの主な意見】</p> <p>○ 「輸入食品との質的差別化を図る」手段として取り組むことを期待する。「食の安全性・環境負荷の軽減」と「国産」との接点を見出せると類似している他の研究との差別化が図られるのではないか。</p> <p>○ 点的に存在している実践農家の事例を広く収集し、作物毎の類型化を行い、課題に接近する必要がある。海外情報についても課題解決に適合した情報収集を行う必要がある。</p> <p>○ これまでの研究成果をどのように位置付け、全体としてどのように研究目的につなげていくかの議論が必要である。今後の政策的な示唆も含めて刺激的な問題提起を期待したい。</p>
今後の対応方針	指摘にもとづき、多様な情報ソースを活用して、先駆的に取り組んでいる農家等の事例や海外情報を収集・整理するよう計画の一部を変更するとともに、食の安全・環境保全と国産及び輸入農産物との関係も含め、2年間の研究成果も踏まえて、食の安全性・環境負荷の軽減を志向する農業生産システムへの支援策等について最終的にとりまとめる。